を記録でき，病的状態における血行動態についても要素別に分析表示することが可能である．

4. 非定型抗酸菌の普遍性

（三神内科）　○竹内富美子・菅野照子
（細菌）　弥吉　真澄

いわゆる非定型抗酸菌が結核患者より分離されて以来，本菌については世界の各地において論議されている．本学細菌学教室においても本菌について様々の方面から研究したが，われわれは引き続き中検に依頼された喀痰その他の結核菌培養の検査物について検索を行なつた．また同じ場所で分離された抗酸菌は抗原性の類似したものが認められるので，同一院内における感染の可能性もあるのではなかろうかと考え，院内における抗酸菌の分布を検討した．

実験方法：1)本菌の検索，昭和35年10月より約6カ月間，結核患者の喀痰等の中検に依頼された1676件を肉眼的所見，染色鏡検の結果 330件の抗酸菌を検出，寒天培地に培養し，その結果得た11株の分離菌と，人型結核菌 H_2，非病原性抗酸菌 Phlei を対照として検索を行なつた．培養方法として5種類の培地，生物学的性状検査としてカタラーゼ反応，ナイアシンテスト，中性紅反応，抗煮沸性等を行なつた．

2) 本菌の分布，本院結核患者等 162名，院内職員72名について口唇の周囲，手甲，足甲の皮膚擦過，材料を1％小川培地に培養した．

実験成績：1)11株を集落の色調等により3グループと，対照に分けた．グループ1の4株はクリーム色，乾燥性が多く，培養成績，生物学的性状等から non-chromogen 或は結核菌との中間の性質をもつものと考えられる．グループⅡの6株は橙色，湿潤性が多く，培養成績，生物学的性状共に scoto-chromogen に属するものである．グループⅢの1株は培養成績，生物学的性状共に non-chromogen と思われる．なおこれらの抗酸菌の毒力について目下検討中である．2)被検者 234名の擦過材料よりは1例の抗酸菌も分離出来なかつた．　総括：中検に依頼された結核菌培養1676件について検索を行ない，結核菌と考えられない11株を分離した．本院における本菌の汚染というようなものは考えられなかつた．

5. 〔症例検討会〕

腹痛について

司会　川上　博教授

詳細は追つて本誌に掲載する．

6. 〔綜説〕人口動態と季節

（衛生）　甕　君代

各種人口動態は気候要素の影響のみでなく，これにともなう風土習慣，宗教的儀式，食物，住居等の生活様式，その他種々の社会経済学的因子の影響により一定の型の季節的変化を示している．しかしてこれらの季節変化は一定不変のものでなく，時代の変遷文化の発達による社会環境ないしは生活環境の変化にともなつて次第に移り変つてゆくことが考えられる．著者は国家統計上にあらわれる各種人口動態すなわち，婚姻，離婚，死産，出生，死亡の最近における季節変化の状態を，昭和30年から昭和34年における5年間平均の月別比例によりみたのち，とくに時代的に変化を示す死亡については，30年前の資料すなわち大正14年より昭和4年にいたる5年間のもの，季節変化を主要死因別に比較分析し，さらに幾つかの文献を参照して，死亡の季節変化の今昔につき考えてみた．

まず婚姻，離婚については近年の資料で実質的なる事件発生の月，すなわち挙式月別婚姻件数および同居をやめた月別離婚件数により，死産は自然，人工別に，それぞれの季節変化をみ，出生よりみた受胎の季節変化との関係もみた．死亡，乳児死亡は，昔の第1の冬の山と第2の夏の山をもついわゆる双峰型の季節変化より，最近の冬の山だけの単峰型の季節変化に変つてきている．その変化の原因を死因別に分析してみると，胃腸炎や夏の消化器系伝染病その他による死亡の減少（例，腸チフス，パラチフス）ないしは季節変化のピークの移動（例，胃腸炎，百日咳，カッケ等）のほか近年の主要死因となつている脳卒中，心臓疾患をはじめ多くの老人病が冬を山とする季節変化をすること，その他結核死亡の老人層への移動と共に生じた夏春より冬へのピークの変化，乳児死亡中新生児死亡の比較的増加等が主な原因であつた．しかし，乳児や老人の死亡が冬に多い傾向は，住居の改良，室内気候の調整，季節に偏らぬ栄養等一般生活文化の改善により，変化するであろうことを環境衛生の面より結論した．

7. 第3回産婦人科国際学会に出席して

（産婦人科）　大内　広子